

2024環境経営レポート



対象期間：2024年1月1日～12月31日

発行日：2025年6月30日

 松山株式会社



エコアクション 21
認証番号 0000499

目次



1. 理念	p. 2
2. 組織の概要	p. 3
3. 対象範囲	p. 3
4. 環境経営体制	p. 4
5. 環境経営方針	p. 5
6. 環境経営目標及びその実績と評価	p.6
7. 環境負荷実績	p. 7 ～p. 8
8. 環境経営計画への取り組み内容と評価	p. 9 ～p.12
9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	p.14
10. 代表者による評価と見直し・指示	p.14

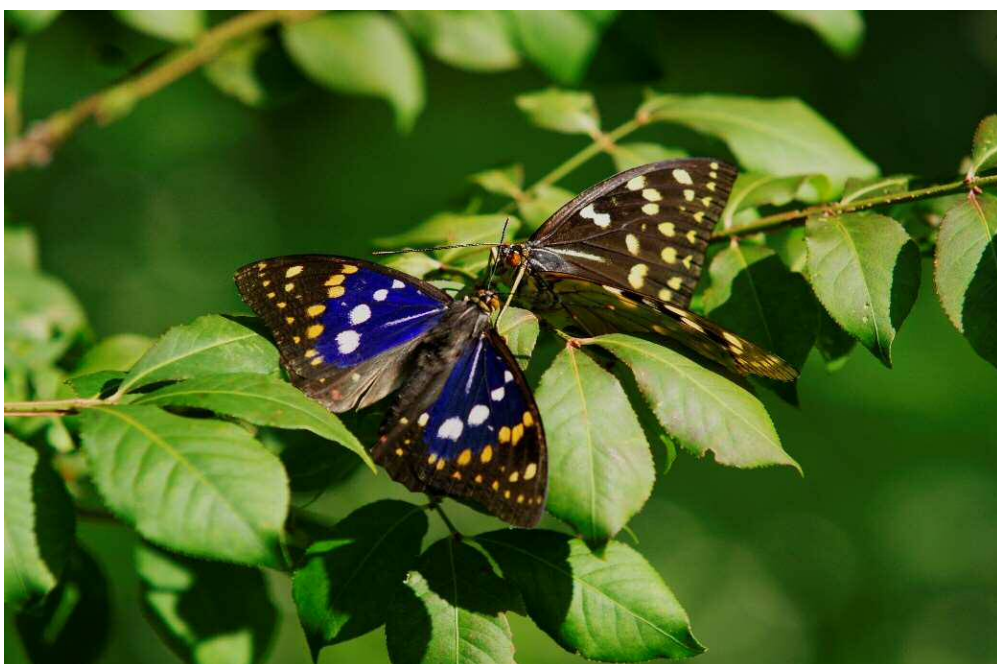
1. 理念

21世紀は環境と食の世紀といわれています。

農業は環境と食を守る旗手です。

農業を通して、美しい郷土、きれいな日本、そして地球環境保全に努め、循環型社会形成のために貢献することが松山株式会社の使命です。

国蝶「オオムラサキ」の生息している、美しい自然を保護し、地域、長野県、日本、地球規模で求められている環境対策に貢献します。



2. 組織の概要

① 事業者名および代表者名

松山株式会社 代表取締役社長 松山 信久

② 所在地

本社	長野県上田市塩川5155
物流センター	長野県上田市塩川2949
北海道営業所	北海道岩見沢市栗沢町由良194-5
旭川出張所	北海道旭川市永山北1条8丁目32
帯広出張所	北海道河西郡芽室町東芽室北1線18番10
東北営業所	宮城県大崎市古川清水3丁目石田24番11
関東営業所	栃木県栃木市大平町横堀みずほ5-3
長野営業所	長野県上田市塩川2949
岡山営業所	岡山県津山市瓜生原757-4
九州営業所	熊本県宇土市松山町1134-10
南九州出張所	宮崎県都城市甲斐元町3389-1

③ 事業の概要

農業機械の開発、設計、製造、販売

④ 事業の規模

売上高	227億円
全従業員数	356名（認証対象）
本社工場延べ床面積	23,514㎡
北海道営業所	1,797㎡、旭川出張所 969㎡、帯広出張所 511㎡、
東北営業所	4,433㎡、関東営業所 4,396㎡
長野営業所・物流センター	9,620㎡
岡山営業所	3,535㎡、九州営業所 4,156㎡、南九州出張所 897㎡

⑤ 環境保全関係の責任者・担当者連絡先

責任者	常務取締役	村山 生夫
担当者	総務部総務課	小畑 真人
連絡先	TEL 0268-42-7500	FAX 0268-42-7520

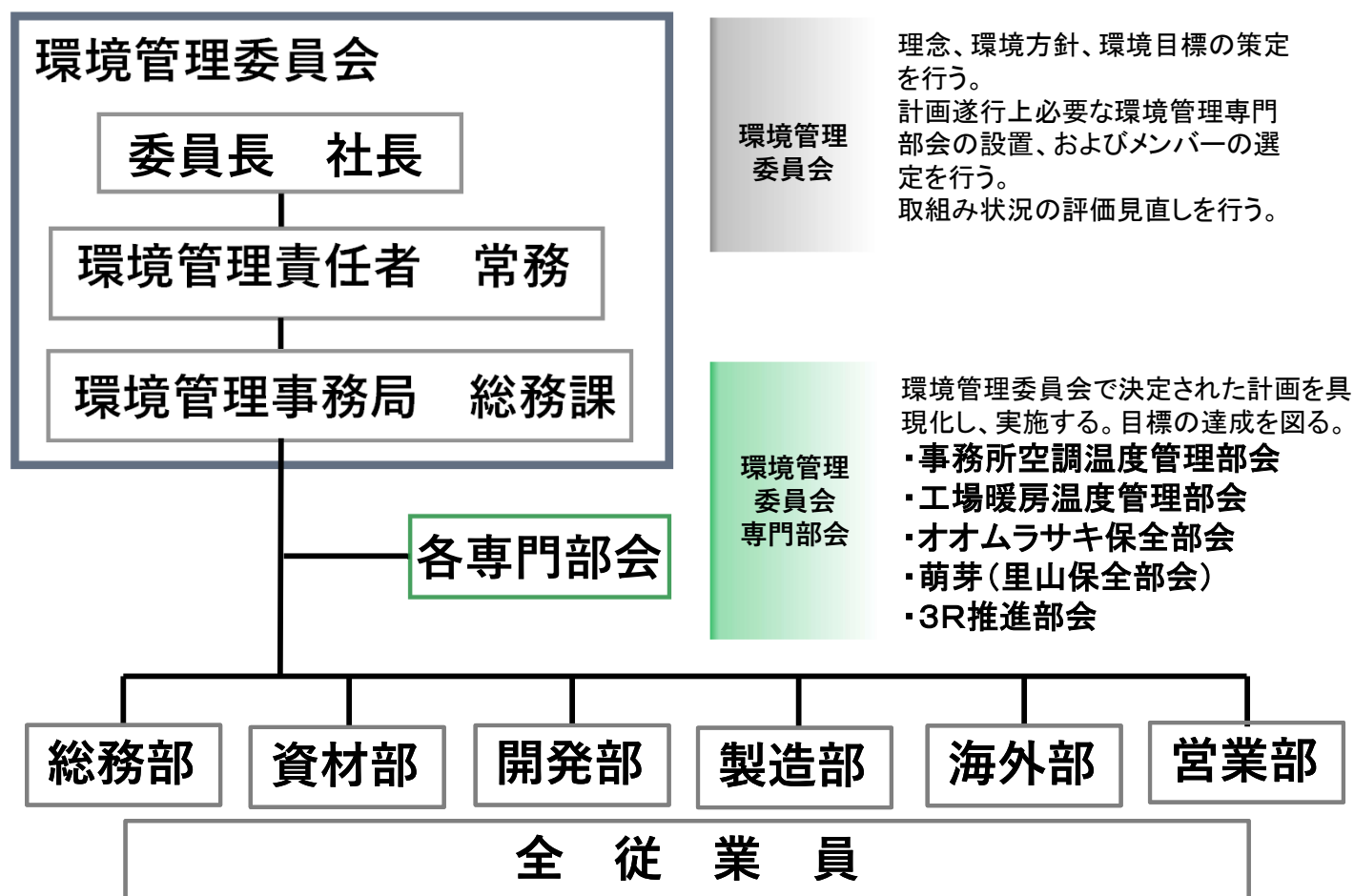
3. 対象範囲

① 対象組織 本社工場、全営業所、全出張所、物流センター（全組織）

② レポートの対象期間 2024年1月1日～2024年12月31日

③ 発行日：2025年6月30日

4. 環境経営組織体制



委員長	社長	環境活動の代表をする。環境管理委員会の開催権を持ち、会議の議長を務める。
副委員長	常務取締役	環境管理責任者を務め、委員長を補佐し、必要に応じこれを代理する。
統括	総務部長	環境管理委員会、および環境管理委員会専門部会で決定された事項について、既存職制組織内での円滑な活動を指導し、支援する。特に部門間にまたがる事項等に関しては該当部門を指導し、効率の良い活動を進めさせる。
部門長	部長	環境管理委員会、および環境管理委員会専門部会で決定された事項について、部門内での円滑な活動を指導し、支援する。
営業所長(出張所)責任者	所長	環境管理委員会、および環境管理委員会専門部会で決定された事項について、営業所・出張所内での円滑な活動を指導し、推進する。
事務局	総務課	環境管理委員会の事務を行う。 各環境管理委員会専門部会から提出される資料を整理し、環境管理委員会に提示する。 環境管理委員会専門部会の活動を支援をする。 社内外への広報活動を行う。 環境活動に関して、対外的窓口となる。
部会長		専門部会の開催権限を持つ。 会議の議長を務める。 専門部会での討議・決定事項を議事録としてまとめ、環境管理委員会事務局に報告する。
部員		部会長を補佐し、自主的な運営の中で、独創的なアイデアを出し合い、目標の達成を図る。

5. 環境経営方針

■環境保全型農業を支援する機械類の開発をします。

資源の有効活用・環境負荷の軽減・低燃費・減肥料栽培体系など、環境にやさしい農業を支援する作業機を開発します。



■地球温暖化を防ぐための施策をおこないます。

電気、ガス、ガソリン、軽油、灯油の使用量を削減し、二酸化炭素の排出を抑制し、省エネルギーに努めます。

太陽光発電システムで発電した電力を最大限自家消費し、電力の購入を削減します。製品梱包を小さくし、輸送に関わる環境負荷を軽減します。

雨水の活用を図り、上水道の使用量を削減します。



■リサイクルや使用抑制を図り、限りある資源を大切に使います。

紙の分別をおこない、再資源化を図ります。

再生紙の使用を徹底します。

紙の使用量を削減します。

鉄枠を再利用し、木材の梱包を削減します。



■調整池の水質を浄化し富栄養化を防ぎます。



■グリーン購入を進めます。



■広大な社有林の管理に努めます・・・自然にやさしく接します。

除草剤や農薬の使用場所を限定し、社有林内では使いません。

間伐・植樹を計画的におこない、遊歩道を整備し里山を地域に開放します。

松くい虫被害を環境にやさしい施策「樹幹注入」で食い止め、後世に赤松林を残します。

「オオムラサキ」の保護をおこない、観察会等を実施し地域と共有します。



■法を守ります。

環境関連法規や地域条例を遵守し、地域社会の環境保全に寄与します。

■化学物質を適正に管理します。



■持続可能な社会を実現するため、SDGsの目標達成を目指します。



松山株式会社は、以上の方針に基づいて社員全員で活動します。

2022年1月1日改訂
2004年11月15日制定
松山株式会社
代表取締役社長 松山 信久

6. 環境経営目標及びその実績と評価

(1) 中期目標 全社

項目	実施項目	単位	2023年(基準)	2024年	2025年	2026年	2027年
			実績	目標	目標	目標	目標
二酸化炭素排出量の削減	購入電力使用量	kWh	2,452,580	2,452,580	2,403,528	2,379,003	2,354,477
		対基準	100%	100%	98%	97%	96%
	L P G 使用量	kg	297,076	297,076	291,134	288,164	285,193
		対基準	100%	100%	98%	97%	96%
	ガソリン使用料	ℓ	49,122	48,140	47,157	46,175	45,192
		対基準	100%	98%	96%	94%	92%
	軽油使用量	ℓ	327,306	320,760	314,214	307,668	301,122
		対基準	100%	98%	96%	94%	92%
	灯油使用量	ℓ	125,391	122,883	120,375	117,868	115,360
		対基準	100%	98%	96%	94%	92%
二酸化炭素排出量	kg-CO2		3,352,907	3,352,907	3,285,849	3,252,320	3,218,791
	対基準		100%	100%	98%	97%	96%

(2) 中期目標 本社工場

項目	実施項目	単位	2023年(基準)	2024年	2025年	2026年	2027年
			実績	目標	目標	目標	目標
二酸化炭素排出量の削減	購入電力使用量	kWh	2,177,072	2,177,072	2,133,531	2,111,760	2,089,989
		対基準	100%	100%	98%	97%	96%
	L P G 使用量	kg	291,620	291,620	285,788	282,871	279,955
		対基準	100%	100%	98%	97%	96%
	ガソリン使用料	ℓ	24,601	24,109	23,617	23,125	22,633
		対基準	100%	98%	96%	94%	92%
	軽油使用量	ℓ	37,654	36,901	36,148	35,395	34,642
		対基準	100%	98%	96%	94%	92%
	灯油使用量	ℓ	99,817	97,821	95,824	93,828	91,832
		対基準	100%	98%	96%	94%	92%
二酸化炭素排出量	kg-CO2		2,276,256	2,276,256	2,230,731	2,207,968	2,185,206
	対基準		100%	100%	98%	97%	96%
廃棄物排出量の削減	燃やすすかないゴミの焼却量	t	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1
		対基準	100%	100%	100%	100%	100%
	鉄粹回収量	t	503	503	503	503	503
		対基準	100%	100%	100%	100%	100%
総排水量の削減	上水道使用量	m ³	13,399	13,399	13,399	13,399	13,399
		対基準	100%	100%	100%	100%	100%
化学物質 (PRTR 制度対象物質) の適正管理	エチルベンゼン取扱量	kg	2,054	2,054	2,013	1,992	1,972
		対基準	100%	100%	98%	97%	96%
	キシレン取扱量	kg	3,267	3,267	3,202	3,169	3,136
		対基準	100%	100%	98%	97%	96%
	トルエン取扱量	kg	654	654	640.92	634.38	627.84
		対基準	100%	100%	98%	97%	96%

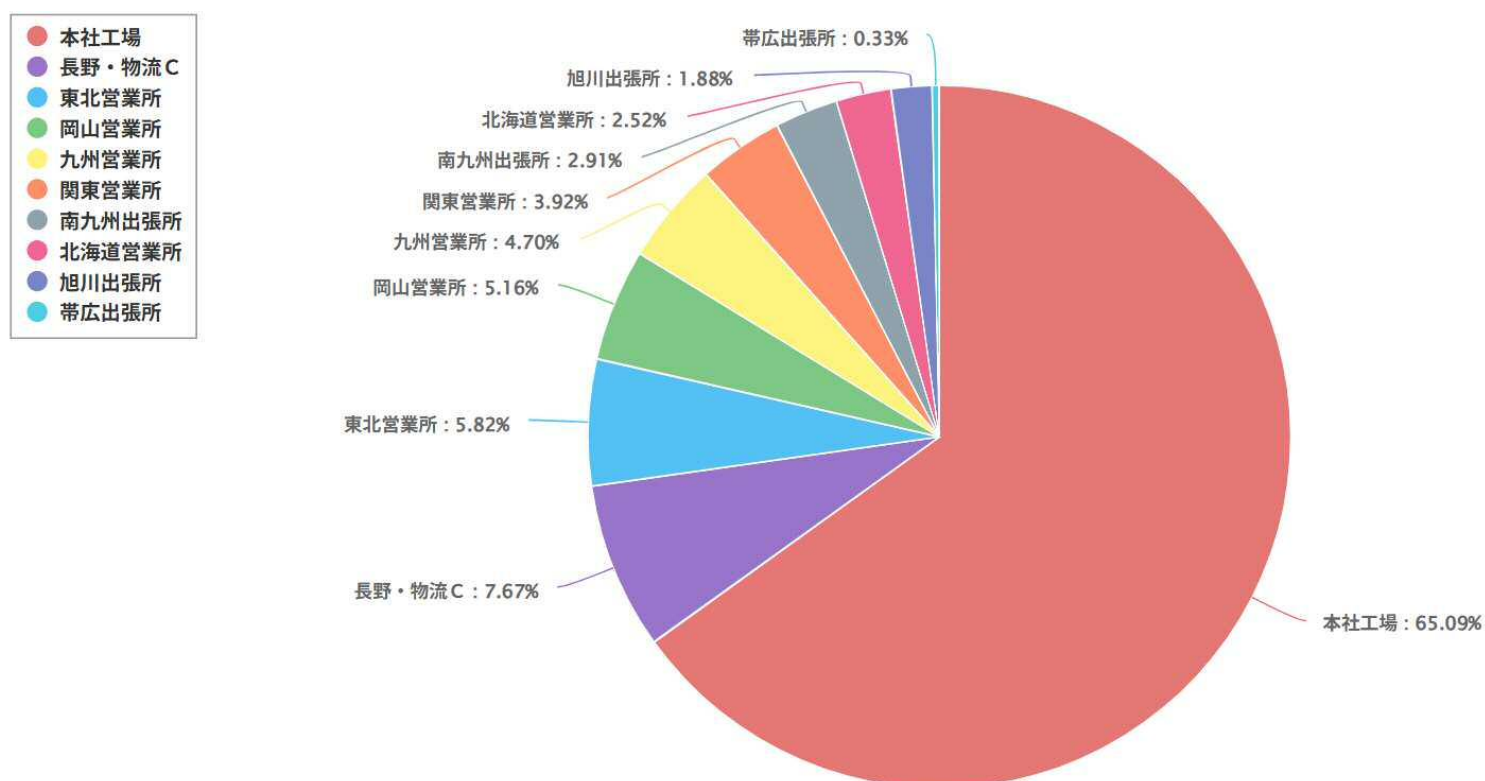
7. 環境負荷実績

(3) 環境負荷実績 全社（営業所・出張所含む）

目的項目	実施項目	単位	2023年	2024年		評価
			実績	目標	実績	
二酸化炭素排出量の削減	購入電力使用量	kWh	2,452,580	2,452,580	2,412,354	○
		前年比	99%	100%	98%	
	L P G使用量	kg	297,076	297,076	273,687	○
		前年比	89%	100%	92%	
	ガソリン使用料	ℓ	49,122	48,140	47,883	○
		前年比	117%	98%	97%	
	軽油使用量	ℓ	327,306	320,760	343,177	×
		前年比	107%	98%	105%	
	灯油使用量	ℓ	125,391	122,883	146,184	×
		前年比	103%	98%	117%	
二酸化炭素排出量		kg-CO2	3,352,907	3,352,907	3,292,988	○
		前年比	100%	100%	98%	

※電力排出係数(Kg-CO2/kWh) 北海道電力0.532 東北電力0.385 東京電力0.408 中部電力0.393 中国電力0.511 九州電力0.402

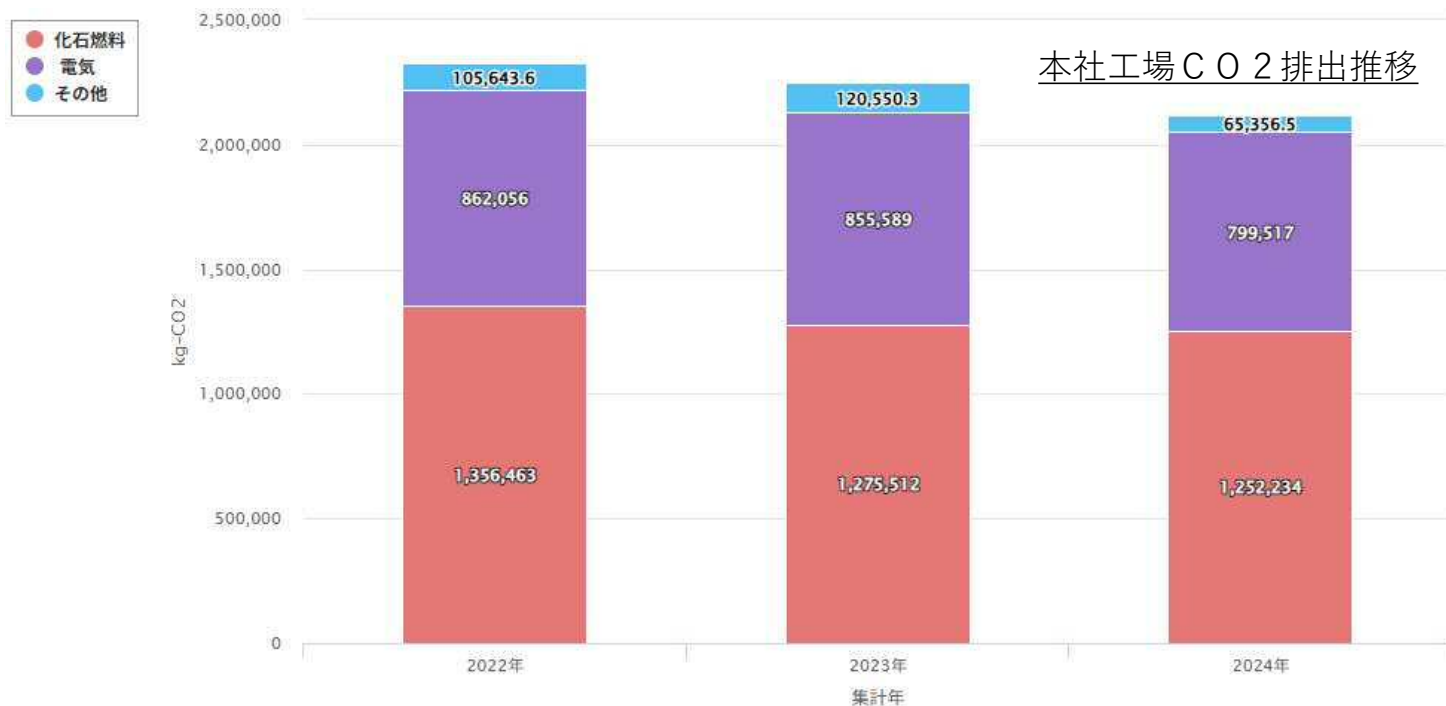
事業所ごとのCO2排出割合



(4) 環境負荷実績 本社工場

※電力排出係数(Kg-CO2/kWh) 中部電力0.393

項目	実施項目	単位	2023年(基準)	2024年		評価
			実績	目標	実績	
二酸化炭素排出量の削減	購入電力使用量	kWh	2,177,072	2,177,072	2,034,396	○
		前年比	100%	100%	93%	
	L P G使用量	kg	291,620	291,620	270,438	○
		前年比	100%	100%	93%	
	ガソリン使用料	ℓ	24,601	24,109	26,515	×
		前年比	100%	98%	110%	
	軽油使用量	ℓ	37,654	36,901	38,708	×
		前年比	100%	98%	103%	
	灯油使用量	ℓ	99,817	97,820	113,027	×
		前年比	100%	98%	115%	
	二酸化炭素排出量	kg-CO2	2,276,256	2,276,256	2,143,249	○
		前年比	100%	100%	94%	
廃棄物排出量の削減	燃やすすかないゴミの焼却量	t	9.1	9.1	9.7	×
		前年比	100%	100%	107%	
	鉄粹回収量	t	503	503	488	×
		前年比	100%	100%	97%	
総排水量の削減	上水道使用量	m³	13,399	13,399	13,254	○
		前年比	100%	100%	99%	
化学物質(PRTR制度対象物質)の適正管理	エチルベンゼン取扱量	kg	2,054	2,054	1,790	○
		前年比	100%	100%	87%	
	キシレン取扱量	kg	3,267	3,267	3,505	×
		前年比	100%	100%	107%	
	トルエン取扱量	kg	654	654	904	×
		前年比	100%	100%	138%	



8. 環境経営計画への取り組み内容と評価

推進項目	主要な活動内容	取組み結果	担当部門
2 気候変動 対応 9 産業と資源効率 の向上 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 適応 環境保全型農業 の支援	1. 作業時に排出されるCO₂を削減する (SDGs重点取組項目)	スライドモアのTDCを、00から01シリーズにモデルチェンジ。最大オフセット量を265mm増加させ作業性が向上。新開発の「リアフルハッチ構造」の採用で裁断した草の吐き出しがスムーズになり、裁断時の所要動力が低減。その結果刈幅を1400mmから1500mmに広くでき、さらに最高作業速度も5km→6kmまで上げられるようになった。これらの性能向上により作業効率が28%向上し、0.661kg/10aの作業に伴う二酸化炭素の排出削減を達成した。 	開発部
		ウイングハローのWRZを00から10シリーズにモデルチェンジ。代かき軸周辺の外装構造を見直し、仕上がり性能を向上させた。特に均平板の加圧は作業者はトラクタに乗ったまま「ユニフィットレコン」を使い、電動で加圧入切ができる。この機能を使い圃場の高い部分の軽微な土引きを行えるようにするとともに雑物の埋め込み性能を向上でき、総作業時間を短縮できる機能を搭載した。また前モデルで作った「NIPLO VISION」を新シリーズでも踏襲し、ハローの作業姿勢や代かき深さを確認する事が出来るなど、作業者の負担を軽減した。 	
		大型ロータリーを10から20、21シリーズにモデルチェンジ。耕耘爪として、前シリーズより耐摩耗性が約1.3倍に向上した新型耕耘爪を開発し搭載した。爪の交換回数の低減により爪の生産工程で発生するCO₂の発生を減らす事ができた。 	
	2. 梱包鉄枠の再利用	製品を運ぶ鉄枠について出来る限り回収を行い、再利用に努めている。	営業部
	【評価】 高能率、高性能な新型機を市場投入し、環境負荷を軽減し持続的な農業を支援している。		○

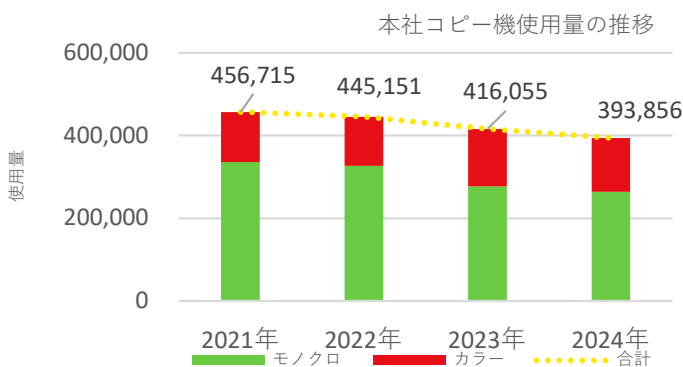
8

電力使用量の削減（前年維持）

13

二酸化炭素排出量の削減

電力使用量の削減（前年維持）	1. 省エネパトロールの実施	年3回実施し、不必要な電気の消灯、使用していない機械の電源オフ、人がいない箇所の暖房器具のオフ、整理整頓等の指導をした。	製造部
	2. 再生可能エネルギーの利用	太陽光発電システム（100kW）を導入し、本社・工場にて使用している。	総務部
	3. ライトダウンキャンペーンの実施	CO2削減/ライトダウンキャンペーンを行った。6月6日、7月11日をノー残業デーとし、6月29日は家庭でライトダウン（夜8時～10時）を行った。	
	4. 本社工場水銀灯LED化	約200灯の水銀灯をLED化した。	
	5. 照明のセンサー化	工場内トイレの照明をセンサー感知式に変更。	
	6. ノー残業デーの実施	適切な働き方の実現と省エネを目的として、月1でノー残業デーを実施した。	
	【評価】電力使用量前年比93%と削減。街路灯や蛍光灯のLED化を進めたこと、残業時間削減による効果があった。		◎
ガス及び灯油使用量の削減（前年維持）	1. 温度管理に対する意識高揚	オリジナルポスター（4種類ずつ）を作成し、事務所に掲示を行い、社員にクールビズ・ウォームビズを呼びかけた。	事務所空調温度管理部会
	2. 送風機の活用	会議室、営業部、開発部にてエアコンの空気が循環するように送風機を併用した。	
	3. ハイブリットファンの活用	空調機に取り付け、事務所内エアコンによる温度差を緩和させ効率化する。	
	4. ガス使用量の把握	事務所内エアコン用ガスの使用量を調べ、活動の基礎データにした。	
	5. 熱中症指数計の活用	熱中症指数計を導入し、エアコンの運転を開始する基準を明確化した。	
	6. 新塗装工場稼働	焼き付け温度が下げることでガスの使用量を低減した。	◎
	【評価】LPG使用量は前年比7%削減となった。2023年8月に完成した新塗装工場が今期対象期間中は通年稼働できたため、焼き付け温度の違いからLPG消費を低減できている。		
	1. 温度管理表の運用	工場内暖房使用基準について温度管理表に従い実施した。	工場暖房温度管理部会
	2. 温度データの把握	工場各職場の温度データを取り、活動の基礎データとした。	
	3. シートシャッターの活用	冬場はインターロック機構を設定し、手前のシャッターが閉じなければ奥のシャッターが開かない様にしている。	製造部
【評価】灯油使用量は昨年比で13%増加。旧塗装設備が撤去された分の工場内熱源を補うため暖房使用量が増した。灯油使用量削減に向け引き続き温度管理等を地道に継続する。		×	

8燃費削減に 貢献する 13資源削減に 貢献する	ガソリン及び軽油の使用量削減 (前年比2%削減)	1. 安全運転の推進	交通安全運動の呼びかけ、運転記録証明により該当者への指導、安全職場への表彰等啓発活動を行った。	総務部																				
		2. ハイブリット車両の運用	プリウス他、計10台を導入し運用している。																					
		3. WEB会議システムの活用	WEB会議システムを活用し、移動することなく打合せすることができるようにしている。																					
		【評価】ガソリンが8%増加、軽油は3%増加した。引き続き安全運転の観点から長距離移動への注意喚起、燃費重視の余裕を持った運転の心がけ等を推進していき、使用燃料の削減につなげていく。各車両の月間走行距離、燃費を全員が確認できるようにした、相互管理による改善効果に期待したい。		△																				
	生産効率の向上	1. 新塗装工場稼働	新塗装工場が2023年8月より本格稼働開始。レイアウト変更、塗装ロボットの導入、ストレージ設置等により生産能力が向上。また、2液ウレタン塗料（特化則フリー）への変更でVOC排出量を削減。		製造部																			
		2. 製造ラインデータの収集と見える化	溶接・組立ラインの機器をネットワーク化し、タッチパネルディスプレイなどを導入。様々な情報の見える化、情報間の因果関係を明確化し、原価低減とリードタイム短縮を定量的に評価可能にした。																					
		3. QRコードリーダーの活用	QRコードリーダーで製品の情報をPLCへ転送することにより、製品のデータ管理や記録が可能となった。台数を増やしてさらに効率化を図っている。																					
		4. 生産システムの活用	生産システム（MCframe）を活用して、生産現場の効率化、リードタイムの短縮、生産管理のレベルアップ、原価システムの見直し、原価低減、生産現場の見える化などが可能になった。																					
		5. 100%良品化活動の実施	製造部、資材部の各職場で、製造の不良や営業からのクレーム情報をテーマに改善活動を行い、その成果をまとめて発表する発表会を行っている。																					
		6. ハンディーターミナルを使用した検品システムの導入	出荷時にハンディーターミナルを使用し部品を照合することで誤出荷を8割削減。無駄な輸送費や人件費を減らすことができた。																					
【評価】新塗装工場建設に伴う塗料の変更でVOC排出量を削減。生産ラインの見直しと、IT技術のさらなる導入で生産効率を向上させ、工場稼働時間の削減、電力燃料使用量削減と二酸化炭素排出抑制を推進する。		○																						
11廃棄物の削減	燃やしやすいゴミの削減及びペーパーレスの推進 (前年維持)	1. 紙分別を行う	業者の基準に従い紙を分別し、再生可能な物は業者の再生工場へ回している。	3R推進部会																				
		2. ゴミゼロ運動に参加	社員39名で周辺公共道路のごみ拾いを行い、約16kgのごみが集まった。 	総務部																				
		3. 窓付き封筒の窓部の素材変更	給与明細の窓部分の素材をプラスチックから紙に変えたことでリサイクル性の向上、環境負荷の削減ができるようになり、燃やしやすいゴミの削減に貢献している。																					
		4. 社服の変更	通気性の良い素材の社服に変更したことでクールビズにつながった。また、交換した社服をリサイクル素材として活用している。																					
		5. ellシステムの運用	営業系の業務を紙からデータ管理に移行し、部品受注や出荷伝票で使用していたA5帳票やストックフォームが大幅に削減している。																					
		6. デュアルモニターの活用	本社コピー機使用量の推移  <table><thead><tr><th>年次</th><th>モノクロ</th><th>カラー</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>2021年</td><td>350,000</td><td>106,715</td><td>456,715</td></tr><tr><td>2022年</td><td>320,000</td><td>125,151</td><td>445,151</td></tr><tr><td>2023年</td><td>280,000</td><td>136,055</td><td>416,055</td></tr><tr><td>2024年</td><td>250,000</td><td>143,856</td><td>393,856</td></tr></tbody></table>		年次	モノクロ	カラー	合計	2021年	350,000	106,715	456,715	2022年	320,000	125,151	445,151	2023年	280,000	136,055	416,055	2024年	250,000	143,856	393,856
		年次	モノクロ	カラー	合計																			
2021年	350,000	106,715	456,715																					
2022年	320,000	125,151	445,151																					
2023年	280,000	136,055	416,055																					
2024年	250,000	143,856	393,856																					
7. グループウェアの導入DX化																								
【評価】グループウェアを活用し申請書の電子化、クラウド保存化を推進。社内申請や回覧文書のペーパーレス化も浸透している。今後もリデュースに着目し、廃棄物の削減を図る。		◎																						

6 賢く水の利用を推進する 11 持続可能な都市を構築する 調整池富栄養化防止		1. 水質検査		定期的に実施している。	製造部	
		2. 菱の実によるpH上昇抑止		菱の実で池を覆うようにし、植物プランクトンの光合成によるpH上昇を抑えている。		
		【評価】富栄養化は工場排水に原因がある場合が多いと言われている。水質検査の数値を分析し、富栄養化防止につなげていきたい。			○	
6 賢く水の利用を推進する 13 持続可能な消費を 総排水量の削減	上水道量の削減（前年維持）	1. 雨水利用		1,000ℓタンクを2ヶ設置し、雨水を利用して植栽の水やりに用いた。	総務部	
2. 漏水チェック		毎週月曜朝のまだ社内に人がいない時間帯に水道メーターが動いていないのを確認している。				
【評価】1%削減。物流センターで漏水があり発見が遅れた。早期に漏水を発見するため、水道メーターのチェックを続けていく。				△		
グリーン購入の推進		13 持続可能な消費を	1. エコマーク・再生材商品の購入推進		エコマーク商品・グリーン購入法適合商品を優先して購入している。	総務部
		【評価】近年、購入対象商品の多くが環境に配慮した物となってきた。			○	
15 陸の豊かさを守る 里山の環境を整え自然との共存を図る（SDGs重点取組項目）	社有林管理	1. 社有林（里山）の地域への開放		会社休日には社有林を地域の里山として開放し、遊歩道散策・自然観察のために訪れることができる場とした。	総務部	
		2. 伐採木の活用		伐採した松くい虫被害木を用いて椅子やテーブルを制作、活用している。また状態の悪いものは暖房用に薪ストーブの燃料として活用した。 		
		3. 松枯れ防止樹幹注入施工		19本の松に120本の薬剤を注入した。間伐と合わせて進めていく。		
		4. 竹林の伐採間伐		日が入りにくくなっていた竹林の伐採間伐を行い、光の入りやすい環境になった。		
	【評価】生物多様性豊かな里山の保護のため、今後も間伐を行い適度に手を入れていきたい。また、樹幹注入の効果で松枯れを防ぐことができています。			◎		
	国蝶「オオムラサキ」の生育環境保全（乱舞を夢見て）	1. 羽化個体数の調査		7月に敷地内にてオオムラサキの個体数調査を実施した。	オオムラサキ保全部会	
		2. 「エノキ」の実生の調査		社員有志にて社有林内の実生のエノキや残したいクヌギ、コナラに目印のポールを立てた。併せてエノキに絡みついたツル草を刈り取った。（6月と9月に実施）		
		3. 観蝶会の実施		来社されるお客様に社有林、遊歩道、オオムラサキの保護などの活動を紹介する看板を設置している。	総務部	
4. 上田創造館主催おもしろ化学少年団自然観察会への協力		 				
5. 社有林・遊歩道の看板を設置						
【評価】昨年は一日あたりの個体数が1頭まで激減してしまっていたが、今年は6頭まで盛り返すことができた。引き続き、SDGsの重点取組項目でもあるので間伐や下草刈り等環境整備に地道に取り組んでいくとともにエノキの保護を行い、個体数の増加を目指す。			◎			

 環境上の緊急事態への準備および対応	1. 複合防災訓練の実施	地震・火災時の避難訓練、消火訓練と環境負荷の災害を想定して防災訓練を10月17日実施した。環境負荷災害訓練は「灯油・オイル・廃油・薬品の漏洩」、「塗料庫からの出火」を想定し、対応方法の検討を行った。		総務部
	2. 営業所・出張所の災害時電源確保の対応	災害時におけるコンピューター関係の電源確保の為、全ての営業所と出張所に非常用電源を設置している。		
	3. 災害時対応備蓄物資の準備	各営業所にて災害発生直後から3日、本社でも1日対応できるよう物資を備蓄し、発電機、石油ストーブを備えている。本社ではソイジョイを常備し、普段は小夜食とする「ローリングストック」を行っている。		
	4. 消火器の更新	消火器を16本更新をした。		
	【評価】大地震などの災害に対する体制が構築されてきた。今後、消防機器の老朽化したものから随時更新していく。			○
 団体への支援	1. 小学生への環境活動の紹介	本社工場見学、社有林の紹介等 小学校5校、383名に参加いただいた。		総務部
	2. ハナサカ軍手プロジェクトへの協賛	信州大学繊維学部内任意団体「ハナサカ軍手プロジェクト」へスポンサーとして支援している。		
	3. 地域の小学生向け産業図鑑への協賛	上田市・東御市教育委員会後援で製作され、地域の小学生のキャリア教育に役立っている冊子「わたしたちの街の社会見学」に協賛している。		
	4. アイダホンプロジェクトへの協賛	特定非営利活動法人信州元気塾の活動を通して、古本寄付による障がい者就労支援を行っている。		
	【評価】地元団体への協賛支援、学校関係の工場見学受け入れ等を通して社会貢献や地域社会とのコミュニケーションに力を入れている。			○
 化学物質（P R T R制度対象物質）の適正管理（前年以下）	1. 化学物質の適正管理	化学物質は主に塗装関係に使用しているが、作業者の安全と無駄な使用が無い様に注意している。		製造部
	2. ディーゼルエンジン排気ガス浄化装置の導入	掘取機の調整・走行試験時にディーゼルエンジンから排出される排気ガスに含まれるNox、亜硫酸ガスを、75%除去することができる排気ガス浄化装置を導入している。		
	【評価】エチルベンゼン、キシレン、トルエン共にほぼ横ばい。昨年の塗装工場仮稼働依頼、下塗りを特化則フリー塗料に切り替えたことで化学物質の大幅な削減ができています。			○

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

No	法規制等の名称	要 求 事 項	順守評価
1	大気汚染防止法	VOC濃度測定	○
2	水質汚濁防止法	排出水の汚染状態の測定	○
3	浄化槽法	法定検査、点検、水質検査	○
4	廃棄物処理法	マニフェスト、契約書、保管基準、報告書の提出	○
5	PRTR法	排出量等の把握、届出	○
6	省エネルギー法	年間エネルギー量の算定	対象外
7	消防法	危険物保管、地下タンク点検	○
8	高圧ガス保安法	保安検査	○
9	自動車Nox・PM法	粒子状物質の排出基準、大阪府流入車規制	○
10	RoHS指令	有害10物質の使用禁止	○
11	毒物及び劇物取締法	業務上取扱者規定	○
12	道路交通法	安全運転、運転日報、積載量	○
13	道路法	荷崩れ防止の為の固定ベルト使用	○
14	道路運送車両法	定期点検整備	○
15	フロン排出抑制法	簡易点検の実施	○
16	労働安全衛生法	決められた管理者の選任	○

関係機関や周辺地域等から過去3年間特に指摘はありませんでした。訴訟等も同様です。

10. 代表者による評価と見直し・指示

エコアクション21の認証取得から20年経過し、各拠点を含めた活動活発化と環境経営への意識向上が社員に定着し様々な面で効果を実感しています。電力、LPG使用量、CO2排出量は削減できています。積極的に進めている照明のLED化、DX化によるペーパーレスの推進は高く評価します。特に、グループウェアでの走行距離・燃費の見える化はエコドライブ意識向上に繋がることを期待します。

一方で、営業活動活発化に伴う軽油消費量増加、塗装設備撤去後の灯油使用量増加は喫緊の課題です。工場の断熱性向上、省エネ化対策を早急に進めて行きたいと考えます。今後の環境経営目標について、エネルギー消費量に加え、CO2削減目標を設定します。設備の電化、太陽光発電増設を視野に入れ、目標達成に向けた取り組みを強化していきます。

社有林については、引き続き下刈りや間伐を継続的に行い、国蝶オオムラサキをはじめとする里山の豊かな生態系の維持に努めます。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標	☐ 変更なし	☒ 変更あり
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり